

	意見・提言・感想等	回 答
1	<p>6月3日（金）午前10時本会議が仮議場（地場産業振興センター中3階）で開催され、傍聴いたしましたので、いくつか感想を記述します。</p> <p>1. 仮議場の床レベルはフラット、会場のレイアウトはわかりやすく、環境は快適でありました。コロナの再拡大がないことを願う次第であります。</p> <p>2. 議事の進行については、会議規則36条3項により、議案の説明を省略しておりますが、これからも会議に諮って、省略を続けるのかをおたずねいたします。特に市民にとっての重要議案については、執行部による説明なくして、論点の整理と十分な討論ができないのではないかと感じられます。</p> <p>3. 傍聴者として、質疑応答の音声が聞き取りにくい場面がありました。マスク着用の上での発言によるものなのか、よくわかりませんが、特に早口・小声による発言は伝わりにくいように感じました。</p> <p>今後は多少意識され、改善されることを希望いたします。</p> <p>4. 新庁舎建設については、久保田議員・河原井議員から意見がありましたように、市民感情に思いをはせることが大切だと思います。制約条件のある現地で建設、財源としての合併特例債の適用・期限にこだわるあまり、総事業費は令和2年8月21日の市民説明会の58億から膨らみ続け、現在では97億5千万円とのこと。最終の総事業費はいくらになるのかも明確になっておりません。ずさんな計画と甘い見通しがもたらした結果のように思われてなりません。これからの市政全般に影響を与えることは必定でしょう。組織の理論は別にして、まず市民に対する、すっきり感のある王道の説明を求めます。</p> <p>5. 3月29日の桐生タイムス紙から、共創企画部企画課内に公共施設マネジメント推進担当者の任命が報道されました。市民として幸甚に受けとめております。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>現在までコロナ禍の対策として省略しております。状況が落ち着いたタイミングで元に戻すための協議をする予定です。</p> <p>今後、ポータブルスピーカーを数台増設するとともに、マイクの高さを上げるなどの対策を取らせていただく予定です。</p> <p>一般質問等について、いただいたご意見は、各議員・当局にお伝えします</p>

2017年には、桐生市公共施設等総合管理計画が策定され、2051年度末までに45%を縮減するとしています。いまだ実行のプロセスが明示されておりません。経年劣化する施設の利用計画と処分は自治体の財源運営に大きく影響するものと思料します。

6. 施設をつくることは、将来にわたって、自治体の責任で、維持しなければなりません。この時にかかせられないことは施設ごとにライフサイクルコストを公表し、コスト意識を市民に共有させることが重要です。仮に、100億円の施設を新設すると、耐用年数を50年～80年として長寿命化投資（大規模改修）を含めると2～3倍のばく大な費用が想定されます。

人口が減り、税収が縮減すれば、施設を維持するための経費は長期的視点にたつて、計画的に取り組む必要があります。現有施設の維持管理、更新コストに将来の経費見込みを含めた、ライフサイクルコストを詳細に計算し、市の財政に与える影響と財政の健全性が担保できるのかの検討が早急に求められます。

重要なことは実行プロセスの作成とPDCAサイクルを回すことと考えます。